

令和4年度 活動実績

団体名

NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク

1. 「遍路大使任命書」・「自転車遍路大使任命書」の授与

前山おへんろ交流サロンとへんろの里に委託して歩き遍路には「遍路大使任命書」を自転車遍路には「自転車遍路大使任命書」を授与している。2022年4月1日～2023年3月31日の授与数は「遍路大使任命書」1,273名、「自転車遍路大使任命書」91名である。(本事業はNPO法人ループ88四国などとの共同事業)

2. おもてなしステーションの委託

おもてなしステーションに掲示するポスターに各ステーションが提供できるサービス(トイレ・道案内・休憩・ドリンク・Wi-Fi・携帯充電)を一目で分かるようにアイコンで表示し、英語表記も記載。2022年度の新規登録は3件。現在のおもてなしステーションの登録数は50件。

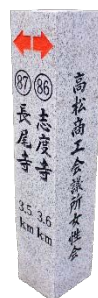
3. 親子お遍路ウォーキング開催

第1回9月24日、第2回10月15日、第3回11月5日、第4回11月26日の4回実施。第1回雲辺寺・大興寺～本山寺(44名)、第2回みの駅～善通寺(48名)、第3回金倉寺～郷照寺(47名)、第4回坂出駅～白峯寺(44名)を歩いた。参加人数を50名に制限し、他参加者との距離を2mあける、近距離での発声は避ける、ウォーキング中以外はマスク着用など感染予防対策をした上で開催した。心温まるお接待も体験し、親子で楽しく歩いた。



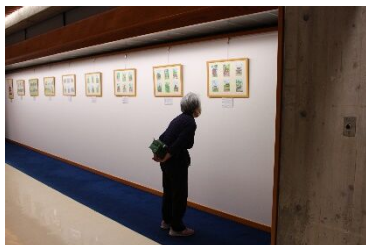
4. 遍路みちしるべ石柱の設置(11月24日実施)

さぬき市造田に1基設置。高松商工会議所女性会の寄贈、設置場所は86番志度寺と87番長尾寺の中間地点で土地提供は飯田桃園飯田将博氏。



5. 総会でのNPO活動報告と講演会(6月13日実施)、金盛弥高松版画展

香川県文化会館にてシンポジウムを開催。英語版遍路地図” Shikoku Japan 88 Route Guide” の著者で当NPO理事の松下直行氏が「現代遍路考と遍路道探索」と題して講演を行った。出席は延べ92名。金盛弥高松版画展は同会館内2階展示会場で6月18日～26日に開催。延べ入場者数は364名。



6. 外国人のための遍路体験の案内とお接待(5月14日、11月12日実施)

香川県国際課主催の外国人のための遍路体験でみの駅～善通寺(5月14日、24名参加)、屋島駅～志度寺(11月12日、24名参加)を案内。甲山寺と中村節朗石材でお接待を行った。



7. 第8回一日一斉「おもてなし遍路道ウォーク」(気づき報告は別紙)

今回は点検ウォークに加えてお接待による参加も募集した。今回も前回に続き遍路道を一巡して切れ目無く点検することができた。参加状況は

	ウォーク		お接待	
	組数	人数	組数	人数
徳島県	113	649	4	30
高知県	133	720	2	11
愛媛県	258	1305	6	47
香川県	458	2415	20	150
合計	962	5089	32	238



香川県では善通寺～弥谷寺までの区間を池田香川県知事、辻村善通寺市長、荒瀬四国整備局長が歩かれた。愛媛県では佐伯推進協会長と安達日本郵便四国支社長と一緒に歩かれた。



外国人遍路からの提言

外国人歩き遍路のサポートを行っている中で世界遺産登録に向けて四国遍路として取り組むべき事柄についてオランダ人遍路から提言を受けたので紹介する。彼女はジャーナリストで2023年2月21日から遍路を始め4月7日に結願後1番まで戻り高野山へのお礼参りも行っている。3年前にお遍路を計画したがコロナ禍で来られず3年待った。これまで外国人遍路からのまとまった提言なので紹介する。

1. 道案内標識の統一

多様な団体・個人がそれぞれのデザインで道案内標識を貼っているが、どの標識に従えばよいか迷う。デザインを統一すれば遍路にとってより魅力的でわかりやすくなる。

2. 道案内標識の維持管理

山中や森の中では道案内標識は明瞭で管理されていることが大変重要である。現在でも、非常に危険な地点で迷うことが起こりえる。例えば、スイスでは少なくとも2年に一度は点検されている。

3. 複数ルート of 明確化

複数のルートがあるときには、標識でどのルートが伝統的な道か、新しい道か、景色の美しい道かななどを示す。

4. 公式のgps/gpxファイルの提供

お遍路さんが自分の考えで作成したgpxファイルが出回っている。公式のgpxファイルが望ましい。

5. 霊場寺院についての詳しい説明

霊場寺院の説明が得られるQRコードは素晴らしいが、より詳細な説明が必要。

6. 宿泊施設の充実

宿泊場所を見つけるのに苦労する場所が何か所かある。特に12番焼山寺を超えたところ。他の場所でも宿泊施設が貧弱なところがある。訪問者を増やすにはより多くの宿泊施設が必要。

7. 英語表記の充実

霊場寺院や博物館では英語での説明が必要。ほとんどが日本語だけで英語での説明がないのでよく理解できずそれらについて話して伝えることもできない。

「お接待は多くの遍路が来ても続けられるのでしょうか。」

私にとって四国遍路の魅力は

- ・お接待によって地元の人と触れ合うことができる。
- ・サンティアゴ巡礼のように1か所を目指すのではなく88の霊場を巡れる。
- ・回遊型の巡礼である。88番から1番に戻ると出発点に戻ることになる。
- ・距離が長いが何回かに分けることもできる。